

一般質問(要旨)



外塚 潔 議員
いばらき自民党
かすみがうら市選出
一括方式

野生鳥獣による農作物被害への対策

議員 野生鳥獣、特に鳥類によるレンコンの被害は深刻であり、被害金額は毎年四億円前後となっている。鳥類の生態をさらに研究し、対策を練っていくべきだが、今後、どのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 県では、茨城大学と協力して水鳥の実態を解明する調査を進めているところである。併せて、つくばの研究機関の調査結果を活用するなどレンコンの生産性と自然環境にも配慮した新たな被害防止策も検討していく。



佐藤 光雄 議員
民進党
戸市選出
一括方式

若者の雇用対策の推進

議員 非正規雇用は正規雇用と比較して賃金格差が大きく、未婚化や少子化の要因にもなっているが、若者の正規雇用化への支援をどう推進していくのか。

知事 県内経済団体への新卒採用枠の拡大要請や若者の正規雇用に意欲的な企業による就職面接会の開催などにより支援しているほか、新たに若者正規雇用化支援スキルアップ事業を実施していく。加えて、さまざまな産業振興策も講じ、正規雇用の創出に取り組んでいく。

つくばの景観づくり

議員 本年五月のG7茨城・つくば科学技術大臣会合を契機に、つくばの景観づくりのため、街路樹の計画や管理マニュアルなどを策定していくべきである。今後、どのように取り組んでいくのか。

土木部長 街並みとも調和した新しい道路景観を街路樹で創り出すために検討委員会を立ち上げ、その意見などを踏まえ街路樹の維持・再生のための計画を策定し管理マニュアルについても検討する。
(ほかに、茨城県総合計画、世界湖沼会議の取り組みなども質問)



新たな被害防止策が求められるハス田

投票率の向上

議員 今夏の参議院議員選挙から選挙権年齢が十八歳以上になる予定だが、投票率向上の取り組みは。選挙管理委員会委員長 二月に県内全域で十八歳選挙権啓発統一キャンペーンを行ったが、家庭において親子で投票の意義を考えられるような啓発も検討したい。また、投票環境の整備のため、駅や商業施設、大学などへの期日前投票所の設置を市町村に働き掛けていく。

(ほかに、待機児童ゼロの早期実現、国民健康保険の安定的な運営の確保なども質問)



大好きいばらき就職面接会の様子



水柿 一俊 議員
いばらき自民党
筑西市選出
一括方式

新中核病院などの整備による医療提供体制の充実

議員 筑西・下妻二次保健医療圏の人口十万人当たりの医師数は、県平均にも程遠い状況にある。新中核病院と桜川市立病院の整備による医療体制の充実に向けて、県としてどう支援していくのか。

保健福祉部長 両病院の平成三十年十月の開院目標を見据え、ハード面の整備に併せて、今後重要性がますます高まっている医師や看護師の確保などソフト面の充実について、筑西・桜川両市に対して最大限の支援を行っていく。

自動車盗難防止に向けた取り組み

議員 本県は自動車盗難の人口十万人当たりの犯罪率が全国ワースト一位であり、地元県西地域でも多発している。今後、自動車盗難防止に向けた取り組みは。

警察本部長 盗難防止器具などの広報啓発や関係団体などと自動車盗難防止対策会議を開催し、官民一体の抑止対策を推進するほか、組織的犯行グループに対する捜査の強化など県警察の総力を挙げて取り組んでいく。
(ほかに、水田農業の確立、県道筑西つくば線の整備なども質問)



盗難防止用タイヤロック(左)とハンドルロック(右)



村上 典男 議員
いばらき自民党
笠間市選出
一括方式

生活困窮者自立支援制度の活用

議員 平成二十七年年度から始まった生活困窮者自立支援制度が、十分に活用されていない状況にある。支援を必要とする方々が制度を十分に活用できるように、今後どのように取り組んでいくのか。

保健福祉部長 相談支援の窓口には生活困窮者の情報を把握する各課とのさらなる連携を働き掛けるほか、就労支援などの任意事業について県所管の町村部で充実を図るとともに、各市に共同実施を働きかけるなど推進に取り組んでいく。

福島・茨城・栃木・群馬・新潟五県 議会議長会を開催

二月三日から四日にかけて、福島・茨城・栃木・群馬・新潟五県議会議長会を本県の水戸市とつくば市で開催しました。

この会議は、各県に関連する重要な課題について情報、意見を交換し、各県議会の活性化、県勢の発展および五県地域の発展に寄与することを目的として毎年開催されており、今年も、地方自治体の重要課題となっている「地方創生」をテーマに、本県の小川一成議長と川津隆副議長をはじめ、五県の正副議長や議会事務局長などが出席し、協議などを行いました。

会議では、初めに開催県を代表し、本県の小川議長より、「地方創生は、全国の地方自治体が相互に限られた資源と知恵を共有し、県境を超えて連携することが有効、かつ、不可欠であり、この会議により五県相互の理解と連携をより一層深めたい」との開会の挨拶を行いました。



開会の挨拶を行う小川一成議長

また、「地方創生」に関する協議では、初めに、内閣府地方創生推進室次長の麦島健志氏から、「広域連携を進める地方創生について」をテーマに、広域連携の有効性などについて講演をいただいた後、各県から地方創生に関する取り組みに関する説明を行い、それらを基に活発な意見交換を行いました。

翌日は、最先端科学技術の集積するつくば市で視察を行い、初めに、つくば市役所で「ロボットの街つくば」の取り組みについて説明を受けるとともに、取り組みの一環として導入しているセグウェイの試乗を行いました。



セグウェイの試乗を行う小川議長

また、次の視察先である「サイエンス・スクエアつくば」では、産業技術総合研究所で行われているさまざまな最先端科学技術の研究成果に関する展示などについて説明を受けました。

※【保健医療圏】…一次保健医療は「通院できる程度の疾病に対する医療」、二次保健医療は「一般的な入院が必要な医療」、三次保健医療は「高度・特殊な医療」であり、それぞれ県が医療圏を定めている。